

理学部 宇宙物理・気象学科 談話会のお知らせ

理学部 宇宙物理・気象学科では12月10日（木）12時30分より、談話会を開催いたします。今回は2020年のノーベル物理学賞の対象研究について、理学部教員がわかりやすく解説します。

日時：2020年12月10日（木）12:30-13:00

場所：[Zoomリンク](#)（アクセスには京産大のアカウントが必要です）

題名：2020年ノーベル物理学賞解説セミナー

要旨：2020年のノーベル物理学賞が10月6日に発表されました。今年はロジャー・ペンローズ氏，ラインハルト・ゲンツェル氏，アンドレア・ゲッツ氏が以下の研究で受賞しました。

- * ブラックホールの形成が一般相対性理論の確固たる予言であることの発見（“for the discovery that black hole formation is a robust prediction of the general theory of relativity”）
- * われわれの銀河系中心にある超大質量コンパクト天体の発見（“for the discovery of a supermassive compact object at the center of our galaxy”）

京都産業大学理学部には、この二つの領域で活発に研究されている教員が在籍しています。そこで、今回のノーベル賞研究の面白さや不思議、人類の宇宙観への巨大なインパクトについてわかりやすく説明いただきます。



諏訪 雄大

理学部 宇宙物理・気象学科 准教授

太陽の約10倍よりも重い星はその一生の最期に大爆発を起こすことが知られています。超新星爆発やガンマ線バーストと呼ばれる宇宙でも最大規模の爆発です。「星の爆発がどのような物理によって引き起こされているのか？」はいまだに解明できていない宇宙物理学における大問題といわれています。私はこの問題に対し、様々なアプローチから研究を行なっています。



岸本 真

理学部 宇宙物理・気象学科 教授

様々な銀河の中心に潜むと考えられている巨大なブラックホールたち。太陽1億個分以上の質量を持つものがそこら中にあると思われています。しかし、それらの巨大ブラックホール近傍の構造や、周りに及ぼす影響など、よくわかっていないことが数多くあります。これらを、これまでになく高い空間分解能による直接探査観測によって、解明していこうとしています。

問い合わせ先：

理学部 安藤紘基・諏訪雄大

Email: suwa_AT_cc.kyoto-su.ac.jp